

## 令和四年度 薬学部 FD 活動報告

徳本 真紀、井上 誠、古野 忠秀、兒玉 大介、安藤 基純、神野 伸一郎、  
佐藤 雅彦、安池 修之、村木 克彦、鍋倉 智裕 (委員長)

愛知学院大学薬学部・薬学研究科 FD・SD 委員会

令和4年度薬学部FD活動として、第1回講演会（「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂方針と今後の臨床教育について」名古屋市立大学大学院薬学研究科および薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会、鈴木匡教授、令和4年7月25日）、第1回FD・SDワークショップ（「卒業時に求められる資質・能力とその評価を考える—『教育目的』『ディプロマポリシー』の改訂に向けて—」令和4年8月1日）を実施した。研究授業は、春学期開講科目のうち薬学部教員が主に担当する全講義を対象に、録画講義のオンデマンド視聴によるアンケートを実施した。

### 研究授業

令和4年7月11日～令和4年8月31日に、薬学部教員が主に担当する全ての春学期開講科目を対象に研究授業を行なった。対象となった科目から、それぞれ1回分の講義動画をMicrosoft Streamにアップロード後、Teams「薬学部会議」において共有し、上記期間においてオンデマンド形式によって視聴した。視聴した教員に対し、講義内容やスライドに関するアンケートを実施した。

アンケート回答件数：46件

アンケート回答者数：40名（回答率83.3%）

講義1科目あたりの回答数：平均1.84件

○アンケート設問

- (1) 視聴した講義の構成や進め方についての感想
- (2) 視聴した講義の情報の提供（スライドや配布資料）についての感想
- (3) その他、気付いた点
- (4) 薬学部全体で共有・議論したいこと
- (5) 今後の研究授業の実施方法について

(1)～(3)の設問に対する回答は各科目毎にまとめた。また、(4)、(5)の設問に対する主な回答もまとめ、全教員にフィードバックを行った。

(4) 薬学部全体で共有・議論すべきことの回答として、かねてより問題とされる、講義内容の科目間での連携・調整の必要性を指摘する意見が多く寄せられた。

また、ストレート合格率の上昇を念頭に、学生の学力を実質的に向上させるための、適切な難易度設定および評価法の必要性を指摘する意見が寄せられた。

(5) 今後の研究授業のあり方について

昨年度に引き続き、オンデマンド方式での実施となったが、普段のリアルな講義が見られること、時間に縛られずに、いくつでも視聴できるという利点から、オンデマンド方式での継続を希望する声が寄せられた。一方で、昨年度実施した際にも意見が挙げられたように、対象となる科目が多いことから意見が分散しやすく、専門分野が近い人の意見が集中し、分野外からの意見が集まりにくいというデメリットを指摘する声もあった。

1回だけでは、講義全体の構成が分かりにくいので全回を視聴した意見が聞きたいといった意見や、現場でないとわからないこともあるので、コロナが収まれば、配信と教室に出向く方法の併用が良いという声も寄せられた。

昨年度からの研究授業で、春・秋学期の科目を一通り対象としたことにより、愛知学院大学第1次中期目標で2022年度までの達成目標に挙げられた「自身の科目を研究授業とした専任教員の割合が50%以上」を十分に達成することが出来た。

次回以降、対象となる科目数や、講義の回数について検討する予定である。また、教科書や配布資料の共有希望があり、次回改善する予定である。

さらに、授業アンケートの結果配布後の事後評価のあり方についても意見が寄せられた。

### 講演会

第1回講演会は、名古屋市立大学大学院薬学研究科教授で、薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会委員の鈴木匡先生に、「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラム

改訂方針と今後の臨床教育について」というタイトルで講演をお願いした。本講演会は、令和4年7月25日に対面で実施し、後日録画の視聴も可能とした。新しい社会のニーズに合わせた新しい薬学教育のため、新たに作成される薬学教育モデル・コア・カリキュラムについて、その意義および重要性をご説明いただき、現行モデル・コア・カリキュラムとの相違や、改訂案の方針について詳細にご教授いただいた。薬学部教職員47名（教員46名、職員1名）が参加した。

### ワークショップ

第1回ワークショップは、「卒業時に求められる資質・能力とその評価を考える—『教育目的』『ディプロマポリシー』の改訂に向けて—」をテーマに、令和4年8月1日に対面とオンラインにて行った。薬学部教職員55名（教員50名、事務職員9名）が参加した。

コアカリキュラム改定の趣旨を理解し、次世代の薬剤師像を明確にした上で、本学のカリキュラム構築を進める準備体勢を整えることを目的として、以下の7点を目標にグループワークを行った。  
<目標>

- (1) カリキュラム改訂の必要を理解する（名市大鈴木匡先生のFD講演会と関連）
- (2) 理想の次世代の薬剤師について討議する
- (3) 本学の現在の教育内容の優れた点と問題点について討議する
- (4) 実現可能なこれからの本学での教育について討議する
- (5) 新しい「ディプロマポリシー」を作成する
- (6) 「ディプロマポリシー」の到達を評価する必要を理解する
- (7) 「アセスメントポリシー」を作成する

7グループ（7-9名/1グループ）に分かれて、午前中には「理想の薬剤師像」および「理想の薬剤師に求められる資質・能力」について議論を行い、鈴木匡教授による第1回FD講演会の内容を再確認して、本学学生の現状を踏まえた課題を抽出した。午後からは「人材の養成・教育研究上の目的」および「ディプロマポリシー」について再検討し、「アセスメント」、「卒業時の評価」、「各学年での体系的な評価」について要件を洗い出し、まとめとリフレクションシートを作成した。

はじめに大正大学の成田秀夫教授から講義「Society 5.0を生きる若者たち」を受けた。



### 文部科学省「2040年の大学のグランドデザイン」

#### 2040年に必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿

##### 予測不可能な時代を生きる人材像

■ 普遍的な知識・理解、汎用的技能、文理横断

■ 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って、社会を改善していく資質を有する人材

■ 一人ひとりが、自ら課題を発見し、他者と協力して課題を解決する

### これからの薬剤師に求められるもの

調剤が正確にできること...  
医薬品や医療の知識が豊富なこと...  
科学者としての分析能力を持っていること...

- 新しい問題を「チーム」の一員となって解決する力
- 持っている知識や技能を確実に活かすための高いコミュニケーション能力
- 医療人として働くことのプライドと責任感
- 地域そして社会の中で貢献することを目指す高い意識
- 医療の進歩に貢献する研究マインドと科学的な基礎力
- 課題そのものを発見し、それを分析・解決する力

### Society 5.0とは

#### 問題も答えも明確ではない時代



### アセスメントとは

#### 教育目標、ディプロマ・ポリシーと連動したシラバス



## アセスメントとは

目標・評価・育成を一体化にした「逆向き設計」

### ・逆向き設計の発想

①ゴール（教育目標：どんな能力を身につけさせるか）

②アセスメント（評価方法を考える）

③カリキュラム設計・実践（何をどう教えるか）

また、グループワークの合間には本学薬学部の山本浩充教授から「本学ワーキンググループの検討内容」について講義を受け、新しいディプロマポリシーについて二つの素案が示された。

①これからの薬剤師に求められる資質・能力とは
②理想と現実のギャップを埋めるカリキュラム
③実現可能なディプロマポリシーの作成に向けて

リフレクション（主な内容を掲載した）

#### ①本研修の成果について

- ・基礎系科目で学んだ知識をいかに臨床系科目につなげていくかが非常に重要。
- ・学生・教員の問題点をグループで出し合ったことで、より多くの視点で考えディスカッションを行うことができた。
- ・人材の養成・教育上の目的について深く議論できた。
- ・どのような薬剤師および医療人を世間が求めているのか、さらに、それに向かって大学はどのように学生を育ててゆくべきなのか、という観点から、日頃感じていた課題をワークシートによって可視化することができ、教職員間で共有することができた。
- ・ディスカッションする過程で、改善策についても考えることができ、他者の意見を聞くことで多くの新たな気づきがあった。
- ・薬学部においては、臨床現場を見据えた教育・指導を行ってゆくことが重要であるということが、多くの教員の共通認識であることが再確認できた。
- ・コアカリキュラムの改訂にならいディプロマポリシーなどを変更する必要がある、それには多くの議論が必要であることが身を染みてわかりました。
- ・助教であっても薬学部の教育方針について考えることができ、とても意義のある研修会となった。教授会などへ参加していないために本研修内

容に関する基本情報が不足していたが、逆に若手目線で考えることが出来たのではないかとはいえ、(個人的な反省点として)特に午後の内容が難しく、あまり発言することが出来なかった。

・役職別のグループ分けであったため、他グループ(役職ごと)の意見も拝聴することで、より理解が深まり、新たな問題点を見出すことにも繋がった。

#### ②研修後、次年度までの課題について

- ・インプットだけでなく、アウトプットが重要であることを学生に理解してもらい、実践できるような仕組み作り。
- ・学生のコミュニケーション力を向上する仕組み作り。
- ・卒業時の評価に向けてどのように評価をしていくかをより具体的に議論する必要があると感じました。

#### ③今回の研修の進め方について

- ・対面でのディスカッションであり、スムーズに進めることはできたが時間が足りなかったと感じた。
- ・おおまかな年齢、役職別のグループ分けであったので、自由な意見交換をすることができたと思う。
- ・本研修会はこれまでのテーマに比して非常に難しい内容であったものの、育てたい薬剤師像、現状の把握、ディプロマポリシーに盛り込むべき内容など順序立てて考えることができ、良い進め方であったと感じた。

#### ④その他自由に

- ・日頃感じている課題を可視化し、問題意識を共有し、議論することは重要であり、今回のようなワークショップはとても貴重な機会だと感じた。

### 【総括】

第1回講演会は久しぶりに全対面形式で開催することができ、質疑応答の時間には活発な議論が行われた。多くの教職員が積極的に参加した。第1回ワークショップでは、グループワークを対面のグループとオンラインのグループに分けたため、各グループの課題発表はオンラインで行ったが、円滑に進めることができた。研究授業は昨年と同様の方式で行い、83.3%の回答率を得られ、今後のアンケート実施方式や事後評価も含めた多種多様な意見が寄せられた。

これらの取組みを通じて、今後の薬学部教育の変遷と求められる人材輩出を理解し、全入学者に対して的確な教育を施すことを全教職員の共通認識として推進していきたい。